京城日報
日刊
第一面　夕刊
紙代金月定
一部　百錢
一箇月　人行
東京　朝鮮
發行所
編輯人　發行人
印刷人
東京市麻布區霞町一番地
電話　麻布一二三四
京城府黎明町一丁目
電話　日城一二三四
社會部
紙代金月定　日産工業株式會社

紙絆創膏（有効）
リンゾバン
チンキヨウ
外傷の消毒に
膏藥代りに使用
日産工業株式會社

贈呈
寄贈
昭和13.3.30
帝國圖書館

好成績で議會終了
愈よ諸政策を實行
先づ專任厚生相を決定
內閣の强化をはかる

【東京電話】非常時議會第七十三議會は一日の延長をもつて電力案を成立せしめ、政府提出議案全部通過の未曾有の好成績をもつて二十六日閉幕し異變を傳へられたる政局も一應こゝに安定するに至つた、よつて政府は議會に成立したる重要法案並に軍事費を含む尨大豫算案の實施を見る事となつたが今後は益々擧國一致態勢のもとに支那事變長期戰に備へ、その善後處理の萬全を期するにあるので、さしあたり厚生大臣の專任を決定閣內の强化をはかり、一方國民精神總動員に對する諸般の施策を行ふことに主力を注ぐことゝなつた、從つて近衛首相は二十九日の定例閣議において右の如き議會後に處する政府の方針を說明、その決意を披瀝して各相の協力を求めるが更に三十日の定例參議會においても同樣決意を開陳しその諒解を得る筈である、尙政府は右目的のために二十八日以後連日閣僚午餐會を開き、閣內の緊密なる連絡をはかることゝなつてゐる

第七十三通常議會
閉院式擧行さる

【東京電話】朝野挙國力の實を擧げて一致奮發し成果を收めた第七十三通常議會閉院式は二十七日午前十一時貴族院において擧行された、ひゝれず、近衛首相以下全閣僚、松一、近衛議長以下貴族院議員その他

電力關係法案の實施準備に着手

【東京電話】電力管理準備局を遞信省の一局とし遞信、商工、農林、內務その他關係各省より事務官技術官を拔擢し特に技術官は民間より分離して電力國家管理に關する萬般の準備を進めるもので、有關係官制はおそくも四月中旬に公布し直に事務開始に當る筈である

一、電力國家管理準備局を遞信省の一局とし遞信、商工、農林、內務その他關係各省より事務官技術官を拔擢し特に技術官は民間より分離して電力國家管理に關する萬般の準備を進めるもので、有關係官制はおそくも四月中旬に公布し直に事務開始に當る筈である

二、日本發送電株式會社設立委員

電力管理實施準備中、特に日本發送電株式會社設立準備に關する事務は別に設立委員に任命するが、株式公募資金調達などの問題をはかるため主として財界有力者を任命し、これを主體として準備を進め新會社は昭和十四年四月一日付をもつて設立

三、電力審議會並に發送電設備建設計畫

電力料金の決定並發送電計畫は日本發送電會社の業務及資產に影響するところ甚大であり、これにつき遞信大臣の諮問に應ずるため電力審議會を設置し、大體の料金基準並可後約五ヶ年間位の發送電建設計畫を樹立しおく方針である

四、評價委員會

政府買收によれば評價基準は勅令によつて定め、出資者と日本發送電株式會社事業を第一とした民間當業者を加へた方針であつたが、衆院修正の結果決定は勅令基準により政府が決定することとなつたので關係官廳、有識經驗者の他に民間各社の代表的電力會社は政府任命する

五、出資條件細則決定

電力國家管理準備局において勅令の定むるところ及發送電計畫に服從して必要と認められるところに從ひ、民間發電及送電設備中日本發送電株式會社に出資すべき設備範圍を決定する

六、電力管理費施と民間電力會社

斯して昭和十四年四月一日以降電力國家管理のもとに置かれる結果となるが、これにより現在の民間電力會社は改正電氣事業法により監督せられ電氣料金及國民經濟に制限せられ電氣料金の決定する政府の決定する事となり、日本發送電會社に對して強制的に政府が決定し、日本發送電會社に拘束せられ、その業務は電氣に制限せられ電氣料金及國民經濟に沿つてその事業を營む

慰問使歸還の縺れ
議長の裁斷で釋然
暗雲一掃して明朗化した
八日目の大邱府會

【大邱】府會八日目は廿六日午後一時半開會、南田に引續いて議員の一部に滿洲國視察團の帰還に際し、慰問使として出張したる市議

滿生三勇士

（133）

一龍齋貞丈演
木俣茂彌畫

政太郎切齒扼腕

○「サア先生早く止めを刺しなさい」
一「心得た」
と秋山一角が、奉行所の傍へ寄ろうとする瓶鯨、チラリと横目に見ると提灯の明火、見咎められては一大事と、止めも刺さずに船を漕してしまひました。
△「市助や大分遅くなつたから急いで歸らうよ」
市「左樣でございますね、御用が済入つて暇なすつたと見えて、大分遅くなりやしたね」
△「さうだよ」
市「ヤッ大變だ」
△「どうしたノ〳〵」
市「奉行所で御馳走へ飛込んでアひまでしたよ」
△「夫ぢアいけない、提灯を持つてゐながら何といふ事だ、氣を抜けて弗かなくつちやアいけない」
市「オヤッ、オヤタ、ウワーリ」
△「何だ〳〵、何といふ騒ぎを出す」

市「アレ見給へ、大變ア〳〵」
△「何が大變だ、どうしたのだ」
市「死んでる〳〵、お奏奉行様が切られて死んでるだ」
△「ナニッ……」
と共人が近寄って、
△「アレ、成程……オヤ、まだ幽かに息があるぞうだ、市助、提灯を見せた提灯を……コレ、そんだに顔に晒ちやア仕様がないちやアないか、此方へ貸したら……ヤッ是アイカ、御奉行様、奉行様、オーイ先生、オーイ先生」
と奉行を抱起し耳許へ口をやつて盛りに呼びますとムクリと目を開いて、
齋「何誰だ、ここは」
△「オヤ御奉行先生お氣ついたか、私は自性村の名主でございます」
齋「オヤ左樣か」
名「先生マア此のお怪我はどうなつたのでございます」
奉行は苦しい息をホッと吐いて
齋「モシ名主殿、御身に折入つてお願ひがある、伊政太郎に出遇ひ下すつたら、奴の敵は妹山一角、並に其の門弟田所源助、松枝甚兵衛たりと仰せ下さい」
名「夫れぢやア彼の秋山一角の奴が……ア、さうでございますか、ア、ア、ア

見果てぬ青春 (72)

川口松太郎作
志村立美繪
（蓮無断上演映画化）

母なれば（八）

潮は思案にあきつてしまつた。どうすれば好いのか、自分だけの智恵では、彼へがまとまらなかつた。

勝者をやめれば明男は廃疾へ行く。勝者をやめれば生活がたゝぬ。金の苦労をさせた事が、たゞ、辛抱がなかつたに、辛抱は何情がなかつた。

明男は学校へやる事が出来たなれば、自分の勝地は立たなくなる。が勝者をやめては生きて行く自信がなくなる。

「こんな時に、あのお勝の前へ行つて、子供たちの為に、お勝父様に相談をして見よう、どんな好い智恵が浮び上がらぬとも知れない」

横井の勝前で、ひそかに決心をした日の思ひ出が、ほのかによみがへつて来た。銀瓶の女将の外には相談相手もない潮だけに、勝かた勝地は頼りなく思へる場所であつた。

昔いと思つてゐた残暑も何時の間にか消えて、秋の空には早くも秋の涼風が吹つてゐる。地味なセルの単を着て、潮は電車で青山の勝地へ行つた。お勝詣りをするのに、自動車に乗つては申しわけのない心持がしたのだ、電車に乗つたのは、おそらく、十年ぶりくらゐの新鮮さであらう。乗合せた乗客の顔を見ると、どの人も、苦労の多い顔が刻まれ、苦難に耐へて、凛として、力有顔が目に見えて、胸を打たれるやうだつた。日頃の自分もがどれほどムダの多い、どれほど贅沢な生活をしてゐるか。電車に乗つたばかりでも、直ぐにそんな考へが起つて来るのだから、もつと貧しい人たちの生活むき、はどんなに思案ものであらう。

「自動車をやめて、これからは電車にしよう」

勿体ない——考へも臭く考へ込んでゐる内に、電車は青山の勝地下へ来てしまつた。

だら〳〵坂になつてゐる墓の並木も、葉が黄ばんで来て、勝地を取りまく緑の樹々も、すつかり、秋の色を身につけてゐる。横井家の勝地には、落葉が少し散り敷いて、お詣りの人もたそがれるやうな黄色であつた。この墓の前へ立つただけでも、もうあの帰つて来るやうな気がして、本館から借りて来た箒で落葉を掃き、墓を洗ひ清め線香を焚くと、自分の体までも聖きつて行くやうな気がして、唱名をとなへる前に、先づゆつくりと四辺の風景を眺め回した。

遠い所には、ちらほらとお詣りの姿も見えるが、近くには人の影もなく、心ゆくまで墓前に佇む事が出来るのであつた。

「お父様、今日は御相談にまゐりました。私には、思案にあまる事が出来ましたので、お力を借りたいと思つてまゐりました。」

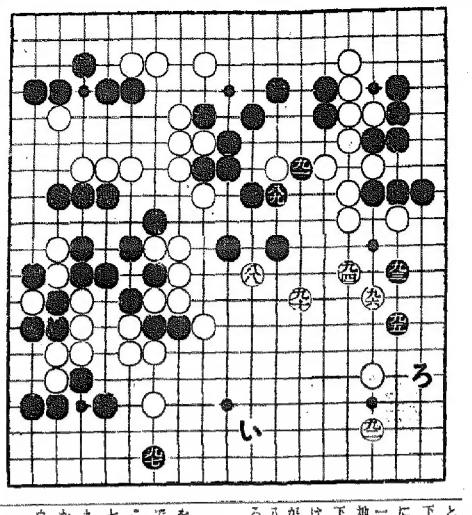
生きる人に呼ぶが如く、冷たい墓前に呼びかけるのだつた。

京日特選棋譜 (10)

八段 高部道平　五段 小澤平了

先手 二歩

白八十八以下黒九十七迄



大耕地完成

八十八が下邊に

大農耕

白八十八を昨日その一手に因つて下邊に白地帯成とされたのは、本日の黒八十九を機会とすれば九十二だと、白が白九十一の左上角に黒が黒九十二の左上角に黒が黒九十三を機会とすれば（い）だと、次に白は九十七で左側から左下隅に浸潤あり、黒は何かと其方一間の所、と黒（い）の一手は敵地に立腐れ。等々で、黒九十三以下九十五だが、次に白九十六と白は、逆手で大包囲完成、即ちこれが白八十八の一手に基く大耕地八十八を「米詩」と称する所以である。

堪らぬ六十目

そこで黒九十七だが、黒九十七を（ろ）だと、白は九十七の所、白は逆手一番の白地が「六十目」これあるにぬ……と許り、黒九十七と白地減少顕著である。が今は白九十八、九十七の右方一間に勝に、又は十七の左上角……かと自分考へ中で、無言目算を要する「慧眼所」

確貨性左上角

黒二黒九十一には敵成し難い。それは所来に備えた不確貨の活計と云ふ者、それは黒九十一は九十一の左上角が好い。これが確貨のある活路。また黒九十三は、十一の左上角が好い。これが確貨性の高い活路。

米詩を視よ

その白の「米詩」地とは、白九十二の時、黒九十三を機会とは（い）だと、次に白は九十七の左側から左下隅に浸潤あり、黒は何かと其方一間の所、と黒（い）の一手は敵地に立腐れ。等々で、黒九十三以下九十五だが、次に白九十六と白は、逆手で大包囲完成、即ちこれが白八十八の一手に基く大耕地八十八を「米詩」と称する所以である。

堪らぬ六十目

そこで黒九十七だが、黒九十七を（ろ）だと、白は九十七の所、白は逆手一番の白地が「六十目」これあるにぬ……と許り、黒九十七と白地減少顕著である。が今は白九十八、九十七の右方一間に勝に、又は十七の左上角……かと自分考へ中で、無言目算を要する「慧眼所」

確貨性左上角

黒二黒九十一には敵成し難い。それは所来に備えた不確貨の活計と云ふ者、それは黒九十一は九十一の左上角が好い。これが確貨のある活路。また黒九十三は、十一の左上角が好い。これが確貨性の高い活路。

米詩を視よ

その白の「米詩」地とは、白九十二の時、黒九十三を機会とは（い）だ

オチラ

廿八日（月）

朝の部

第一放送

午前六・五五　ニュース
七・〇一（東）共聞獨語講座
七・三〇（東）朝の体操
七・五一（東）ラヂオ体操
八・一〇　今日の天気見込
九・四五（城）氣象通報
九・四五（城）料理献立（放送の部）
同（鮮）指揮・斉藤
九・五五（東）家庭メモ
一〇・〇〇（東）入学試験合格者発表　平壌警察
一〇・三〇（大）婦人の時間　春の帽を中心とした服飾の効果　木谷千種
一一・〇〇　入学試験合格者発表（京城）京城農業

晝の部

正午（東）時報　日用品値段・鮮魚卸値段
午後〇・〇五（城）マンドリン五重奏　京城マンドリン倶楽部
一・ジプシー狂想曲
二・春への憧れ
三・カイロの思出
四・ロマンシア
五・公爵夫人の館にて
〇・三〇　ニュース
一・一五　花壇講座（朝鮮語・金山）「春に咲いて」
二・三〇（城）家庭講座　胃と十二指腸潰瘍の新治療法　慶應博士　岡田清三郎
四・〇〇　ニュース（鮮魚通報・釜山・清津）職業紹介

夜の部

六・〇〇（大）話と物の出来るまで（十二）「マッチ」　加藤通文
六・二〇（東）コドモの新聞　講演屋五十二
六・二〇（城）楽曲隠題（京城・清津）　春を歩く　寺田瑛
六・二五　講演（釜）釜山を中心として鮮魚の需給に就て　釜山水産貿易組合　税田谷五郎
六・三五　講演（平壌）この優越性を損ふな　平壌師範學校長　津田信
六・五五（東）カレントトピックス
七・〇〇　ニュース・天気見込
七・三〇（城）歌唱指導　京城師範學校生徒　指揮　吉賀博
（前）鮮教育令
陸軍特別志願兵令
朝鮮総督府令第三号
七・四〇（東）講演　事変下に喜捨祭を迎へて　日本中央慰問会長　伯爵　松平頼寿
八・〇〇（東）管弦楽　本郷初演の名曲（文部省推奨第三回）　指揮　中川俊三
一、イ、カンタータ「開れる見」行列の曲
ロ、行進曲「英雄に捧ぐ」
二、樂劇「パレストリーナ」
三、八つのロシア人形
黒ひ出の記（第三夜）　伯爵　尹致昊
同　鈴木　真一
同　村田みね子
同　三味線　吉田　公乃
同　杵屋　栄次郎　吉川　敏子
同　杵屋　和八　山田　公乃
岩村　栄吉　鈴木　真一
同　荒木　栄四郎　新井　吾郎
音楽指揮　東京放送管弦楽団　新井　秀夫
音楽　東京放送管弦楽団　解説　和田　信賢
演出　講師　慶一
演出　講師　右藤　裕助
音楽　東京放送管弦楽団
九・〇五（東）長唄名曲選（第十二回）
唄　茅村　伊四郎
同　茅村　金五郎
同　富士田吉四郎
同　杵屋　栄次郎
同　杵屋　和八
同　茅村　栄四郎
三味線　宮田　明朗
同　富士田吉四郎
同　杵屋　栄次郎
同　杵屋　和八
同　茅村　栄四郎
九・三〇（東）時報
ニュース・ニュース解説・気象通報・日用品値段
一〇・〇五（城）ロシア語ニュース
一〇・一〇（城）地方へのニュース
鉄道業務
一〇・四五（東）支部語ニュース
一〇・五五（東）英語ニュース
午後〇・〇五　レコード音楽
一・一五　花壇講座（六）

お話

物の出来るまで12

マッチ

【午後六時二十分】加藤通文

（テキスト三四ページ）大昔は人間が火を出すことに非常に心したものですが後になつて石と石を打合して火を出すことを考へたのです。所が今日の世の中ではさすがに斯になつて来ました。既に人造の火の世相、本郷下を歩いて見る様々の世相、本郷下の人造の火何を考へ何を思ひ何を為しつゝあるか。

電気の進歩のレコードの行進曲で来るところ、これに唱和しながら歩いて行く可愛い朝鮮兒童の姿があるかと思へば微醺を春風にたゞよはせて、どこへ急ぐかひとり思出に耽ひしたりながら足早に行く者いサラリーマンがある、春を歩けば何を見る。見たまゝ考へるまゝに話して見たいと思ふ。

春を歩く

【午後六・二五分】寺田瑛

さすがに春になつて来ました。既に二百年ばかり前フランスの「ジャンゼル」といふ人です。後いて百五十年程前今度はイギリスの「ジョンウオーカー」といふ人によつて初めて燐といふものを使つて燐寸マッチが発明されたのです。しかし黄色い燐は火がつき易いので、沢い燐が発明され今日のやうな完全なマッチが出来上つたのです。日本では明治八年ですから今から六十四年前「清水誠」といふ人が「ジョンウオーカー」の方法を踏襲してつくつたのが最初です。

しかしこれは、ほんの、ちよつとした事から、ある人が、「ジョンウオーカー」の方法を踏襲してつくつたのが最初です。

あすのきいもの

午前一〇・三〇（城）家庭講座　米大使秘書官の話
午後〇・〇五（大）映画　大阪映画倶楽部　井上　孝子
指揮　大谷男之助
滑稽　常磐津　常磐津秋太夫外
八・三〇（城）義太夫　竹本東廣
九・〇〇（大）ラヂオ社音楽

連続小説 オチラ

思ひ出の記

三夜

【午後八時五五分】

伊志井寛

伯父の初七夜もすんで、関西學院に帰らうと思つてゐる時、松村が妹と共に東上の途中立寄つた。いつ連れてゐるといふので、鈴江も上京することになつて、四人船に乗つた。途中慨太郎だけ横浜で降りつた。慨太郎は吉事で、「新婚の妻子の面影が忘れれず間もなく僕も帰京の為に帰るはずの松村は既に北海道へ去つた後だつた。

慨太郎は吉事で、「新婚の妻子の面影が忘れれず間もなく僕も帰京の為に帰るはずの松村は既に北海道へ去つた後だつた。

慨太郎は吉事で、「新婚の妻子の面影が忘れれず間もなく僕も帰京の為に帰るはずの松村は既に北海道へ去つた後だつた。

やう吉事に、慨太郎は